

令和6年度 江戸川区立小松川第二小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	「からだも心も健康な子ども」 ・よく考え工夫する子 ・思いやりのある子 ・力を合わせやりとげる子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	みんなの笑顔があふれる学校 いつも にこにこ 二小松の子 子供のために研究と修養に努め、互いに切磋琢磨する教師	A基準:9割以上達成 B基準:7割～9割未満達成 C基準:5割～7割未満達成 D基準:5割未満の
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ ○コロナ禍による制限の中でも異学年交流を可能な範囲で行い、児童の活動満足度89%につながった。 ○資料の収集の仕方等の指導を強化し、児童の調べる学習満足度86%につながった。 ＜課題＞ ●診断テストの目標設定を見直し、段階的に達成できるようにする。また、補習教室の在り方を見直し、算数に課題のある児童に対して、個に応じた指導を充実させる。 ●体力テストでは全学年を通して、東京都の平均とあまり変わらないか、やや下回っている。全校的に体を動かす機会を多く作り、基礎体力を高めていく。			

教育委員会重点課題	＜取組項目＞ ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実 ・補習教室の見直し	東京ベーシックドリルを活用した授業改善。 学力のC層を放課後補習教室へ、D層を教員が指導することで、個に応じた補習を実施する。 タブレットを活用した反復学習。	診断テスト正答率70%以上	B	C	東京ベーシックドリル診断テストの結果は、3年、6年とも平均正答率60%。目標未達であった。今後も学力D層の児童の指導を中心に学力向上に努める。	C	児童の学力把握は他の教科も含めて行うことが望ましい。国語科の指導事項の充実はある教科の学力向上に役立つと考えている。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・読書習慣の更なる定着	図書館資料を活用した探究型の学習を実施（読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） 教員や保護者による読み聞かせの実施。	読書活動に対する満足度80%以上	B	B	一学期は図書館蔵書管理システム導入に向けた準備を進めた。この間、小松川図書館の団体貸出を計画的に利用した。読書活動に対する満足度85%。	B	国語科の学力向上につながる取組である。今後も児童が学校図書館を活用できるよう、学校図書館司書、小松川図書館の学校連携に取組むことが大切である。
	＜道徳教育の充実＞ ・授業力の向上と評価の充実	「考える道徳」「議論する道徳」を意識した授業	授業満足度80%以上	B	A	教員が「考える道徳」「議論する道徳」を意識した授業に取り組んだ。児童の授業満足度90%。	B	人権教育につながる教育活動、いじめ防止につながる教育活動に期待する。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・体育の授業や休み時間における運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上。 ・体育的行事設定による運動意欲の向上。	各学年曜日を決めた運動遊びの実施。 なわとびウィークの実施。	児童の運動意欲80%以上	A	A	運動遊びに加えて「なわ跳びウィーク」を実施したことにより、児童が校庭でなわ跳びを行い体力向上に向けた運動につながる機会が増えた。児童の運動意欲90%。	A	江戸川区の施策をもとに本校の取組を推進し、児童の体力向上に努めることが大切である。教育課程に位置付ける体育的行事についても同様である。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用・促進 ・副籍交流及び共同学習の実施・充実	巡回指導教員や特別支援教室専門員、スクールカウンセラー、巡回心理士との相談体制の連携	児童の学校生活満足度80%以上	B	A	校内委員会や生活指導夕会を定期的に行い、職員間で児童の問題行動、必要な支援の情報を共有した。児童の学校生活満足度92%。	A	引続き職員間において児童の情報共有を行い、問題行動等の前兆を見逃すことがないようにすることが大切である。これまでのスクールカウンセラー、児童相談所職員の連携などが学校生活満足度の数値に表れている。
不登校・いじめ対応の充実	＜不登校・いじめ対応の充実＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・早期対応・組織的な対応	いじめ対策委員会の設置 生活指導夕会での情報共有 ふれあい月間の取り組み QUTテストの活用 スクールカウンセラーの活用	児童の学校生活満足度80%以上	A	A	ふれあい月間において、児童アンケートや学習集団満足度調査を実施し、児童の悩み等への対応やいじめ防止への取組を行った。児童の学校生活満足度91%。	A	引続き職員間において児童の情報共有を行い、問題行動等の前兆を見逃すことがないようにすることが大切である。これまでのスクールカウンセラー、児童相談所職員の連携などが学校生活満足度の数値に表れている。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	＜自校の取組の積極的な発信＞ ・学校ホームページの充実等 ・学校公開の実施・充実	各学年、行事担当者他、週3回以上の更新	保護者の学校情報発信満足度80%以上	B	B	給食等、毎日のホームページの更新を実施した。保護者の学校情報発信満足度86%。	B	文書の電子化と配信は評価できる。引続き教育実践の情報発信に努め、保護者・地域住民が学校の情報を知る機会としていただきたい。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	保護者アンケート、学校関係者評価の実施・活用	保護者の肯定的評価80%以上	B	A	保護者アンケートを6月に実施した。学校公開参観に係る肯定的評価97%。	A	調査結果に基づいた学校評価の実施が望まれる。計画的に実施することが大切である。
特色ある教育の展開	＜異学年交流＞ にこにこ班での活動の実施	にこにこ班活動 行事等での異学年交流活動	活動満足度80%以上	A	A	計画的に異学年児童交流を行った。児童の発言、振り返りからは、本取組を楽しみにしている児童が多いことが分かった。児童の活動満足度92%。	A	学校が掲げる特色ある教育活動のひとつである特別活動の充実に期待している。高学年児童が低学年児童と共に学ぶ、遊ぶなど、取組を継続してほしい。
	＜小中連携教育の推進＞	中学校での部活体験 教職員の授業公開・意見交換	体験学習満足度80%以上	B	B	5月小松川二中を会場に小松川小を加えた3校の教育職員が授業参観、意見交換を行った。児童の中学校における部活動体験は10月に実施予定である。児童の中学校体験満足度調査は10月に実施する。中学校生活に対して期待や関心があると回答した児童の割合81%。	B	地域で児童を育てる目標を小学校、中学校で共有しながら児童の健全育成につながる取組の継続を望む。